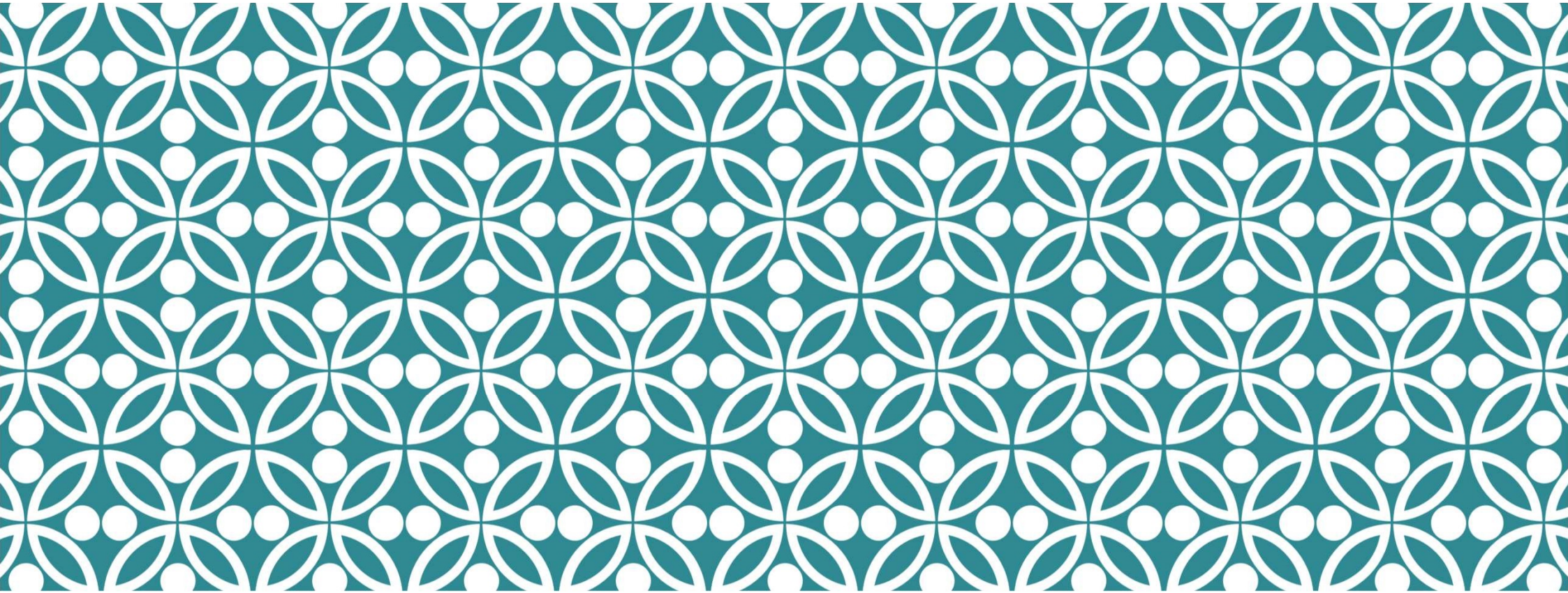

韓国朝鮮研究のための情報源アクセスの現状と図書館に期待する役割

2019年2月22日

辻　大和
（横浜国立大学）

本日の内容

（１）韓国朝鮮研究のための情報源へのアクセスの例

（２）代表的な韓国朝鮮研究関係のデータベース

（３）日本国内の韓国朝鮮研究関係データベースの特徴と課題

（４）図書館等に期待する役割

（１）韓国朝鮮研究のための情報源へのアクセスの例

・報告者の研究分野

①朝鮮王朝の国際貿易

朝鮮王朝が明清中国とどのような貿易を行っていたか

→朝鮮王朝と明清中国が残した文献史料（漢文）を用いて研究

②近現代における韓国朝鮮史関係資料コンテンツ

植民地朝鮮関係の史料整理（目録作成、翻刻等）

現代韓国における歴史関係コンテンツの動向

（１）韓国朝鮮研究のための情報源へのアクセスの例

・報告者の教育や研究会活動

①教育（横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院・学府、都市科学部）

文理融合の大学院・学部

東アジア都市社会論、アジア社会論などを担当

歴史学、東洋学の教員は少ない

②研究会活動

朝鮮史研究会幹事

韓国朝鮮文化研究会運営委員

（１）韓国朝鮮研究のための情報源へのアクセスの例

・研究に必要な情報の入手方法①

私物の図書、大学図書館所蔵の図書・雑誌を閲覧

他大学・機関所蔵の図書・論文記事を取り寄せ（ILL）

※国立国会図書館関西館に日本唯一所蔵の韓国朝鮮語図書があり、助かることあり

他大学・機関を訪問して図書・論文を閲覧

※国立国会図書館東京本館は本人・学生も含め愛用

しかし検索システムの操作性に改善の余地があるかも

（１）韓国朝鮮研究のための情報源へのアクセスの例

・研究に必要な情報の入手方法②

日本所在の代理店や韓国のWEB書店から書籍を購入

※韓国刊行の書籍は絶版になりやすいので入手困難なことあり

韓国・中国現地の大学・機関を訪問して資料調査

WEB上の史料データベースにアクセス

※　基本史料の大半は電子化され、便利になった

しかし著作権の切れていない文献は電子化されていない（図書）か

有料のことが多い（雑誌記事）

（２）代表的な韓国朝鮮研究関係のデータベース（日本国内）

・CiNii　（国立情報学研究所）

・　旧「近現代アジアの中の日本」公開書誌データ（日本貿易振興機構アジア経済研究所）

・戦後日本における朝鮮史文献目録データベース（朝鮮史研究会）

・近代朝鮮関係書籍データベース（東京大学東洋文化研究所）

・日本現存朝鮮本研究データベース　史部・集部（麗澤大学情報教育センター）

・国立国会図書館サーチ

日本現存朝鮮本研究データベース　史部・集部

日本現存朝鮮本研究データベース　史部・集部

藤本幸夫・麗澤大学 情報教育センター

『史部』『集部』書誌検索 [凡例]

検索フォーム：

書名(新旧字体・カナ)または撰者

検索

☑史部を検索 ☑集部を検索

本データベースについて

本データベースは，作成者藤本幸夫（麗澤大学 言語研究センター 客員教授・富山大学名誉教授）が約50年にわたり実地に踏査した日本現存朝鮮本のうち，集部書3,000部及び史部書2,960部のデータベースであり，各書について基本的な10項目を収めています。

詳細情報については『日本現存朝鮮本研究　集部』（2006年，京都大学学術出版会，版元在庫なし）及び『日本現存朝鮮本研究　史部』（2018年7月，韓国東国大学校出版部）をご参照ください。日本国内での『史部』書籍版の購入につきましては下記取り扱い業者にご連絡ください。

『史部』書籍版　日本側取り扱い業者：株式会社　朋友書店

住所：	〒606-8311 京都市左京区吉田神楽岡町8番地

（２）代表的な韓国朝鮮研究関係のデータベース（海外）

＜韓国＞

・RISS4U　（韓国教育学術情報院が提供する、書誌データベース。日本のCiNiiに該当）

・DBpia　（商用論文データベース）

・KISS（商用論文データベース）

・韓国史データベース（国史編纂委員会が提供する、史料情報データベース。『韓国史研究彙報』も含まれる）

・国立中央図書館

詳細は、［川西2014］、［田中2017］、［木村2017］、［李2018］を参照

（２）代表的な韓国朝鮮研究関係のデータベース（海外）

＜アメリカ＞

・ハワイ大学韓国研究センターの

Korean History: A Bibliography

http://www.hawaii.edu/korea/biblio/BiblioOpen.html

KOREAN HISTORY: A BIBLIOGRAPHY

Korean History: A Bibliography Compiled by Kenneth R. Robinson

Bibliography Contents

- General
- Archaeology
- Ko-Chosŏn
- Three Kingdoms
- Ancient Korean-Japanese Relations
- Parhae
- Koryŏ
- Chosŏn
- Late 19th Century through 1945
- Relations with the U.S. and Europe through 1945
- Korean Communities Abroad
- Post-Liberation Era
- Post-Liberation Relations with Japan
- North Korea
- Korean War
- Religion and Philosophy
- Law
- Women
- Demography
- Education
- Journalism
- Science
- Literature
- Arts
- Music
- Dance
- Linguistics

Introduction

This bibliography covers many features of Korean history. The subjects include not only political, diplomatic, and economic history, but also historical linguistics, art history, literature, philosophy and religion, and overseas Koreans, for example. Chronologically, coverage concludes in the 1960s. For studies of South Korea's politics and economy, 1961 is the stopping point; for South Korean foreign relations, coverage continues through the 1965 treaty with Japan and the Vietnam War. Coverage of North Korea continues into the late 1960s. I have not sought to compile a comprehensive list for each subject. Rather, I have provided publications that have appeared since the publication in 1980 of the annotated bibliography *Studies on Korea: A Scholar's Guide* and recent publications not cited in that work. This bibliography, then, is both an updating of and a supplement to that venerable reference.

Unfortunately, I have not been able to find every entry listed here. Thus, some entries are incomplete. Another problem that I frequently encountered is the penchant of many writers to cite a journal article or book not through a romanization of the original language but through a translation into English of the title of the article, journal, and/or book in which the publication appears. The problem with this method of citation, of course, is that many university computer systems or card catalogues do not provide the translated English title of the journal or book. It has been my experience that the great majority of such citations are of non-English language publications. A very small number of entries thus may actually be for articles or chapters written in Korean or Japanese. The issue of romanization extends further. To ease the search for journals and books published abroad whose titles may be cited elsewhere through the English translation, I have sought to use exclusively the non-English title. For example, *Asea yongu* does not appear here as *The Journal of Asiatic Studies*. Still, as with the articles and chapters, there may be a few journal or book titles cited in English rather than in Korean or Japanese.

（３）日本国内の韓国朝鮮研究関係データベースの特徴と課題

①戦後日本における朝鮮史文献目録

所在　朝鮮史研究会ホームページ

http://www.chosenshi.gr.jp/sengo/index.html

・内容　1945～2016年までの日本国内で生産された研究文献（書籍、論文）の書誌情報

・類似したものとして、

東南アジア関係文献目録データベースJABSEAS（東南アジア学会）

日本における中東研究文献DB（東洋文庫研究部イスラーム地域研究資料室）

（３）日本国内の韓国朝鮮研究関係データベースの特徴と課題

・母体

①『戦後日本における朝鮮史文献目録　1945～1991』（緑蔭書房、1994年）

②『朝鮮史研究会論文集』（1992～2015年分まで）

③2016年分以降のデータ（ボーンデジタル）

・［吉田2006］で一部言及あり

戦後日本における朝鮮史文献目録データベース

戦後日本における朝鮮史文献目録（データベース版）

（著作権者：朝鮮史研究会）

New!! 2016年のデータを追加しました（2017年10月19日） New!!

データベースの公開から17年、データ件数は17,961件から40,032件に増えました。

この目録データベースには、1945年以降に日本国内で発表された朝鮮史関係の文献のデータが収録されています。
朝鮮史研究会編『戦後日本における朝鮮史文献目録1945-1991』（1994年　緑蔭書房）のデータと、**『朝鮮史研究会論文集』（第31集～）の巻末文献目録データ**に適宜修正・追加をほどこしたものをもとにしています。
データの収集は朝鮮史研究会が行い、著作権も朝鮮史研究会に帰属します。

朝鮮史研究会の活動などについては、朝鮮史研究会のページをご覧ください。

●検索画面
単行本篇と論文篇とに分かれています。

単行本篇の検索画面　　論文篇の検索画面

●検索方法

利用方法の説明をお読みください。

●データについて
・公開の時点で、1945年から1998年までに発行された単行本4400件、論文13，561件の合計17，961件です。
・データは、年1回前年分のデータを追加するほか、随時訂正・追加します。
・現在のデータ件数は、データベースの歩み・更新情報を見てください。

●データ提供のお願い
このデータベースに入っていない文献、あるいはデータに誤りがあるものなどがあれば、お知らせください。

朝鮮史研究会のページ

単行本篇の検索画面 ｜ 論文篇の検索画面 ｜データベースの歩み・更新情報 ｜利用方法の説明

戦後日本における朝鮮史文献目録データベースの特徴と課題

・特徴

収録媒体がCiNiiより広範

例：博物館などの紀要

研究会などの刊行物

論文集（単行本）収録の個別論文

・どうやってつくるか

研究会幹事の現物調査

戦後日本における朝鮮史文献目録データベースの特徴と課題

＜製作側＞

・大学院生の減少、常勤・非常勤研究者の多忙化のなかで作業人員・時間確保が課題

（持続可能性に少し疑義）

＜ユーザー側＞

・データを一括ダウンロードしにくい（TSV、BIBTEV)でダウンロードできない

・件名検索がしにくい（時代程度しか入っていない）

TSV BIBTEV対応の例　CINII

幸夫
ト, ユキオ

見存朝鮮本研究
夫著
学学術出版会, 2006.2-
集部 CD-ROM　史部
トル読み　　ニホン ゲンゾン チョウセンボン ケンキュウ

館所蔵　107件 / 全107件

ての地域　すべての図書館　　OPACリンクあり

リッジ大学 図書館 UL/Ref FE.203.14	OPAC
育大学 附属図書館 社科 CD-ROM 027.9||F62 06006451	OPAC
立大学 長久手キャンパス図書館 027/4/185 204406823	OPAC
学 豊橋図書館 図 027.8:F62:4 0611055479	OPAC
院女子短期大学 図書館 550703289	OPAC
学 附属図書館 図 027.8:Nih 111112033	OPAC
学 図書館 図 027.8||HU 031201208250	OPAC
育大学 附属図書館 027.8||Fu W0701971	OPAC
立大学 学術情報総合センター 文 027.8//F62//7019, 11401309106,11401370199, 史部 | 027.8//F62//4749, 11401647497	OPAC

詳細情報

NII書誌ID(NCID)：
BA76862446
ISBN：
4876986665
9788978017596
出版国コード：
ja
タイトル言語コード：
jpn
本文言語コード：
jpn
出版地：
京都
ページ数/冊数：
冊
大きさ：
31cm
付属資料：
CD-ROM1枚
分類：
NDC8：027.8
NDC9：027.8
件名：
BSH：図書目録
NDLSH：稀書 -- 書目

書き出し

RefWorksに書き出し
EndNoteに書き出し
Mendeleyに書き出し
Refer/BibIXで表示
RISで表示
BibTeXで表示
TSVで表示
ISBDで表示

近代朝鮮関係書籍データベースの特徴と課題

・内容　1868～1945年までに日本語で生産された研究書籍の書誌情報

・母体　末松保和編『東洋学文献センター叢刊　朝鮮研究文献目録』単行本編　（東京大学東洋文化研究所、1970年）

に所在情報を追加

近代朝鮮関係書籍データベース

近代朝鮮関係書籍DBの特徴と課題

・経緯　①単行本編、論文記事編（後述）
末松保和氏（学習院大学）の個人作業＋ハーバード燕京研究所の援助
→東京大学東洋文化研究所の事業化（梶村秀樹氏）
　＋武田幸男氏（同大学文学部）の協力

②データベース編
宮嶋博史氏（東京大学東洋文化研究所、当時）のもと、
東洋学研究情報センターの事業としてデータベース化

近代朝鮮関係書籍DBの特徴と課題

・特徴

収録媒体が「旧「近現代アジアの中の日本」公開書誌データと重ならないものがある

例：韓国国立中央図書館

東京大学文学部言語学研究室小倉文庫

学習院大学東洋文化研究所友邦文庫

奥州市立斎藤實記念館

近代朝鮮関係書籍DBの特徴と課題

・課題

＜製作側＞

論文記事編も存在するが、データベース化されていない

戦前の韓国朝鮮語文献の目録がない

更新されていない

＜ユーザー側＞

・データを一括ダウンロードしにくい（TSV、BIBTEXなど)でダウンロードできない

・件名検索がしにくい（時代程度しか入っていない）

（４）図書館等に期待する役割①

・韓国朝鮮語図書のコレクションを形成している図書館の蔵書構築継続

・国立国会図書館関西館における海外DBの郵送複写サービス継続

・海外の国立図書館と連携した、協定図書館向け電子化資料閲覧サービス

・国立国会図書館サーチの操作画面変更等に際しては、説明動画を全面的に導入してほしい。カード登録・更新の際に流すなど

（４）図書館等に期待する役割②

・瀕死のデータベース（更新がなされていない）を公共性の高い組織に移管して保存・維持すること

←研究者の移動、組織替えを考え、データベースに永続性のあるアドレス（ＤＯＩなど）を考慮する時期に来ている

（［山田2019］にも同様の指摘あり）

・データベースを継続して整備している組織は、TSVやBIBTEXのように汎用性の高いファイルで出力できるように考えること

参考文献

吉田光男「韓国史研究・教育の社会資本―大学・学会・ツール 」『アジア情報室通報』4(1)、2006年。
https://rnavi.ndl.go.jp/asia/tmp/bulletin4_1.pdf

川西裕也「歴史学とデジタル化―韓国の事例から」九州史学会・公益財団法人史学会編『過去を伝える、今を遺す』山川出版社、2015年。

田中福太郎「韓国のデジタルアーカイブとその利用」『東洋文化研究』19、2017年。
http://hdl.handle.net/10959/00004294

木村拓「韓国所蔵漢籍の検索およびデジタル画像閲覧の方法」『明日の東洋学』38、2017年。
https://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/pub/pdf/nl038.pdf

李炯植「韓国のデジタルアーカイブの現況」『日本歴史』848（新年特集 ICT時代の歴史学；データベース事業の進展 ）、2019年。

山田和久「歴史地理系データベースの構築と紹介」前掲『日本歴史』848、2019年。